

私は柏でたった一頭の牛である

私は牛である。柏市に
いるたった一頭の牛であ
る。ここは中原で、光ヶ
丘中学の真ん前の斎藤牧
場である。かつてはホル
スタイン種の仲間が百頭
もいて、いつも二、三十
頭の子牛がモウモウ、従
業員が六人も働き、一日
千三百リットルほどを搾
乳し、金町の森永牛乳に
運んでいたんだよ。

牧場主、私の飼い主の
斎藤慎一さん(82歳)が
昭和二十五年に、この牧
場を始めたときは柏市に
は二十いくつもの牧場が
あったんさ、いまはゼロ。
斎藤さんは八年前にやめ
たけれど、小さかった私
だけを飼って続けてくれた
のよ。物好きな人間様が
ときどき覗くけれど、た
まには仲間に会いたいよ。

ここは四・八ヘクタールという広さ。斎藤さんの奥さんは、昔流に七町歩と
いうんだ。見てごらんよ。一メートルを越す、伸び放題に延び、草いきれでむ
せるような、懐かしい牧草地が広がっているだろう。牧草という粗飼料づく
りこそ大切という斎藤さんの思いが込められていたんだ。もう住宅に囲まれて
しまっているけれど、さびしいよね。やるせないよね。「斎藤牧場の緑と環境
を考える会」というグループや近隣市民が市に牧場の緑の保存運動を続けてき
た。そのため市でも防災機能を備えた広場や高齢化社会に対応した「ふれあい
拠点」にすることにしようだ。それはいいさ、でも私はどうなるのか。

会員が百五十人という「緑と環境を考え
る会」では、牧場で使っていたフォードの
トラクターで耕耘し、千坪にソバを蒔き、
ヒマワリを二、三千坪ほど育てているよう
だ。それでもデッサイ牧場の、ほんの一部
分に過ぎないさ。第三土曜の午前中には、
みんな集まってにぎやかに百姓仕事をして
いる。楽しそうな声が風に乘って聞こえて
来るよ。見学に来るといいよ。

くっついて、コナラなどの雑木林がある。
昔の薪炭の供給地の面影が残る。市がまと
めてめんどろを見ろといいと思うけれどね。

